

令和4年度 教育課程研究協議会

Art
図画工作

○教科の柱書(小学校)

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.9」

部会全体説明

■ 図画工作・美術科の指導と授業改善

- ・目標の改善
- ・内容の改善
- ・指導と評価の一体化

■ 図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

- ・ICTの活用場面
- ・活用の具体例

Art
図画工作・美術

○生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力について (小学校)

児童が作りだす形や色、作品などや、家庭や地域、社会で出会う形や色、作品、造形、美術などと豊かに関わる資質・能力

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.11」

○教科の柱書(中学校)

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを旨とする。

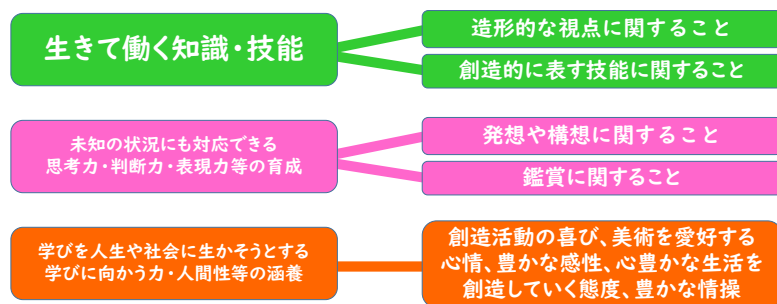
文部科学省「中学校学習指導要領解説 図画工作 P.9」

○生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力について(中学校)

造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の形や色彩などの造形の要素に着目し、それらによるコミュニケーションを通して、一人一人の生徒が自分との関わりの中で美術や美術文化を捉え、生活や社会と豊かに関わるができるようにするための資質・能力

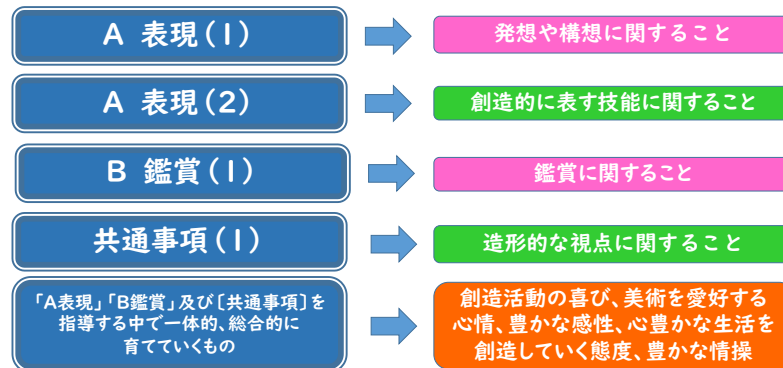
文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.11」

○図画工作・美術科の目標



文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.12~16」
文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.13~20」

○内容の改善・・・教科の目標に対応して内容を整理



文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.12~16」
文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.13~20」

○造形的な見方・考え方とは

図画工作・美術科の特質に応じた物事をとらえる視点や考え方 → **深い学びのための鍵!**



文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.10~11」
文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.10~11」

○共通事項の具体例(小学校)

アについて (知識)
 低学年…形や色、触った感じ
 中学年…形や色、組み合わせによる感じ、色の明るさなど
 高学年…動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなど

イについて (思・判・表)
 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.114~116」

○内容の改善(美術)

[共通事項]

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること (知識)

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること (知識)

文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.45~50」

○共通事項の具体例(中学校)

アについて
 (ア)色彩の色味や明るさ、鮮やかさ
 (イ)材料の性質や質感
 (ウ)形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなど
 (エ)形や色彩などの組み合わせによる構成の美しさ
 (オ)余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢など

イについて
 ・造形的な特徴を基に、見立てたり心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること
 ・造形的な特徴を基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること

文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.125~129」

○内容の改善(図画工作・美術)

[共通事項]

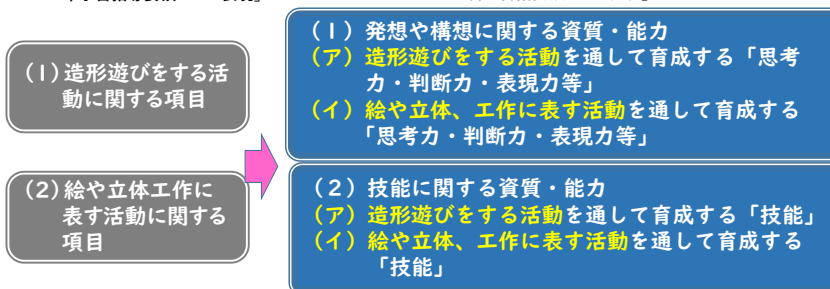
- ・表現及び鑑賞の活動の中で、**共通に必要な資質・能力**
- ・児童生徒が多様な視点から造形を豊かに捉え、**実感を伴いながら、理解することが大切。**

文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.22」
 文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.29-30」

○内容の改善…「A表現」を発想や構想に関する資質・能力と、技能に関する資質・能力で整理。

H20年学習指導要領 「A表現」

新学習指導要領 「A表現」

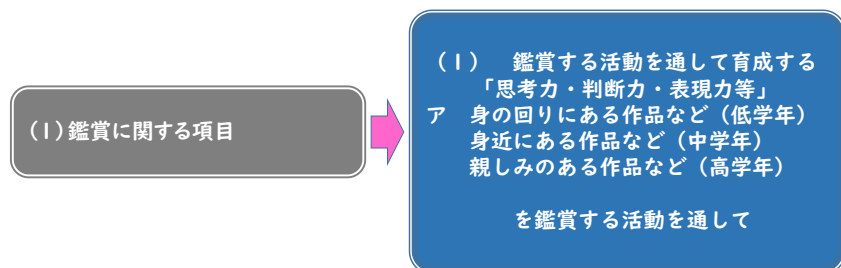


文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.25~31」

○内容の改善…「B鑑賞」を発想や構想に関する資質・能力と、技能に関する資質・能力で整理。

H20年学習指導要領 「B鑑賞」

新学習指導要領 「B鑑賞」

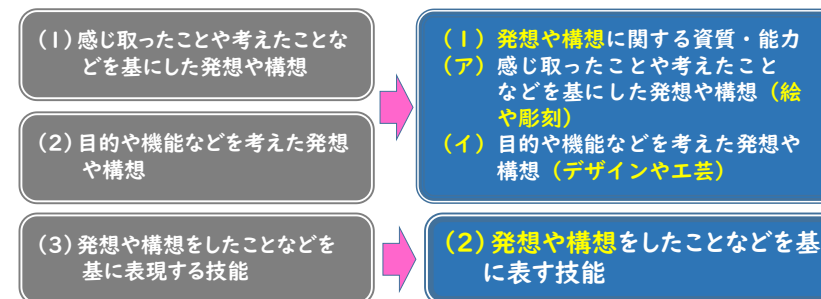


文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作 P.31-32」

○内容の改善…「A表現」を発想や構想に関する資質・能力と、技能に関する資質・能力で整理。

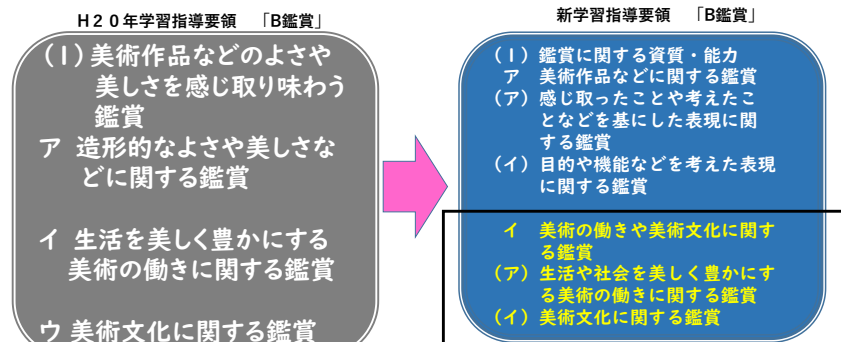
H20年学習指導要領 「A表現」

新学習指導要領 「A表現」



文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.31-40」

○内容の改善…「B鑑賞」の内容を「美術作品など」「美術や美術の働きや美術文化」に関する事項で整理。



文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術 P.40~45」



「指導と評価の一体化」について

学習評価の改善の基本方針

- ①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ②教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③これまで慣行として行われたことでも、必要性・妥当性が認められないものは、見直していくこと

学習評価の進め方

- 1 題材の目標を作成
 - 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成
 - 児童の実態、前題材までの学習状況等を踏まえて作成
- 2 題材の評価規準を作成
 - 1、2を踏まえ、評価場面や評価方法を計画
 - どのような評価資料(児童の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする
- 3 「指導と評価の計画」を作成
- 授業を行う
 - 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる
- 4 観点ごとに総括評
 - 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う



指導と評価の計画

単元	本時の学習目標	評価の場面、評価方法			
		場面	方法	観点	評価
1	「花に心を込めて」の制作目標が達成し、自分の思いを表現し、制作の楽しさを味わう。				
2	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				
3	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				
4	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				
5	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				
6	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				
7	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				
8	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				
9	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				
10	制作の楽しさを味わい、制作の楽しさを味わう。				

題材のまとまりの中で適切に評価を実施

↓

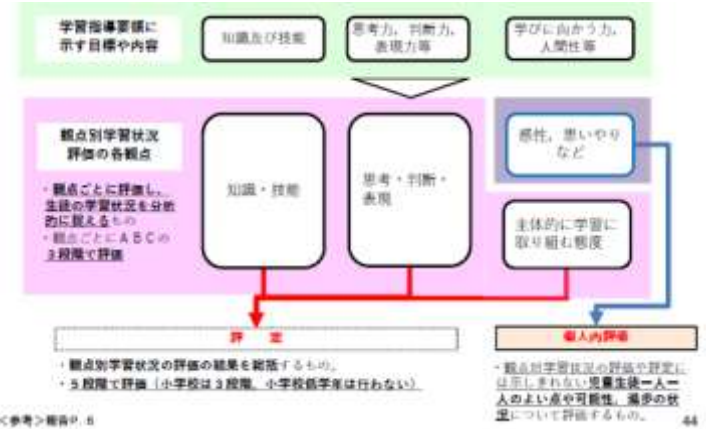
計画的に評価の時期や評価方法等を考えておくことが必要



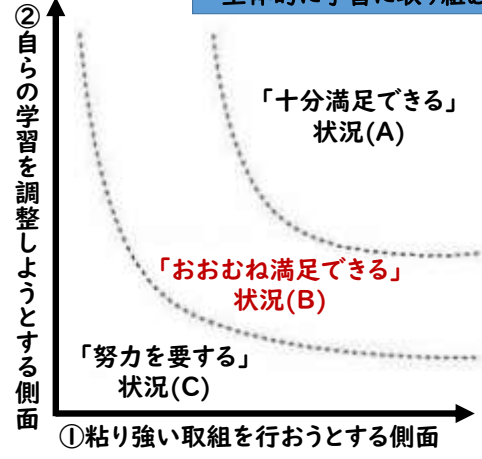
事例3「花に心を込めて」第3学年及び第4学年より

①…題材の評価規準に照らし、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。
 ②…題材の評価規準に照らし、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

実態を把握し、指導に生かす



主体的に学習に取り組む態度について



①②の姿は実際の教科等の学びの中では、別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れる

図画工作・美術科の指導におけるICTの活用

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善 

○小学校図画工作科の指導におけるICTの活用

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成する

学習過程でICTを活用

表現（感じ取ったことや想像したことなどを造形的に表す）
鑑賞（作品などからそのよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める）



図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善 

○小学校図画工作科の指導におけるICTの活用

- 資質・能力の育成と関連付けて活用
- 感性や想像力を働かせる場面を大切に活用
- 発達段階や経験に応じて適切に活用

実際にものに触れたり見たりすることが、
図画工作科の資質・能力の育成において重要

学習のねらいに応じて**必要性を十分に検討**して活用



図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善 

○中学校美術科の指導におけるICTの活用

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する

実物を見たり、
実際に対象に
触れたりするなどして
感覚で直接感じ取らせる
学習活動

ICTを活用する学習活動



題材のねらいに応じて**吟味し、効果的な指導**を行う

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善 

○図画工作・美術科の指導におけるICTの活用場面と具体例

学校における ICT を活用した学習場面		
A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>教科や写真等を拡大・縮小、画像への書き込み等を活用して分かりやすく理解することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らのペースについて深く調べることや、自分に合った速度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習課題を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や地域・海外の学校との交流学習において子供同士による発表発表、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、表現力、観察力などを育成することが可能となる。</p>
<p>A1 教員による教材の提示</p>  <p>画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p>	<p>B1 個に応じた学習</p>  <p>一人一人の習熟の程度等に合わせた学習</p>	<p>C1 発表や話し合い</p>  <p>グループや学級全体での発表・話し合い</p>
<p>B2 調査活動</p>  <p>インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>C2 協働での意見整理</p>  <p>複数の意見、考えを整理して整理</p>	<p>C3 協働制作</p>  <p>グループでの分担、協働による作品の制作</p>
<p>B3 思考を深める学習</p>  <p>シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>B4 表現・制作</p>  <p>マルチメディアを用いた資料、作品の制作</p>	<p>C4 学校の壁を超えた学習</p>  <p>遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>
<p>教育の情報化に関する手引き（速報版）（令和2年6月） 【第4章 第2節ICTを効果的に活用した学習場面の分類例】 図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善</p>		

教育の情報化に関する手引き（速報版）（令和2年6月）
【第4章 第2節ICTを効果的に活用した学習場面の分類例】
図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

○OICTの活用場面と具体例

A 一斉学習

- ・学習効果を高めるために、大型提示装置や学習者用タブレット型端末に画像、動画などを提示
- ・活動の過程を撮影し、振り返りや評価を行う際の資料に



拡大提示や書き込み



前時までの表現と比べる

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

○OICTの活用場面と具体例

A 一斉学習

B 個別学習

C 協働学習

学習支援ツールを活用した製作ノートや鑑賞ノート

- ・製作途中や完成作品を撮影
→学習過程の写真や〔共通事項〕を踏まえた振り返り等の蓄積
- ・撮影した写真をもとに、発見したことや感じたことを伝え合う。



前時の表現と比較しながら発言

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

○OICTの活用場面と具体例

B 個別学習

C 協働学習

造形遊び

- ・造形的な活動ができそうな場所を撮影→相談の資料
- ・作品や自分たちの活動を撮影→新たな発想や構想をすることのきっかけに



図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

OICTの活用場面と具体例

B 個別学習 **C 協働学習**

絵や立体、工作に表す

- ・コマどりアニメーションの仕組みを生かし、形や色などの造形的な特徴を捉えながら、表現を工夫



撮影機能を使ってコマどりをし、動くたのしいものやお話を考え、動きを確かめながらつくる

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

Art

OICTの活用場面と具体例

小学校図画工作科 タブレット型端末を活用したアニメーションの制作



図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

Art

OICTの活用場面と具体例

A 一斉学習 **C 協働学習**

鑑賞

- ・美術作品の画像をタブレット型端末などに取り込んでおき、効果的に提示→「**思考力、判断力、表現力等**」の育成に効果的に活用



図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

Art

OICTの活用場面

B 個別学習 **C 協働学習**

鑑賞

- ・インターネットやオンライン会議システム、学習支援システム（ツール）の活用など



美術館と教室をつなぐ

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善

Art

○小学校図画工作科の指導におけるICTの活用

表現や鑑賞で使う用具として

- ・何度でもやり直したり、色を変えたり様々に試しながら表現の可能性を広げていく
- ・作品に関する情報を検索する
- ・身近にある形や色などのよさや美しさや自分たちの活動を記録
- ・撮影した写真を材料として表現に活用

学習のねらいに応じて**必要性を十分に検討**して活用

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善



GIGAスクール構想のもとでの小学校図画工作科の指導において ICTを活用する際のポイント

小学校図画工作科におけるICTの効果的な活用例

感じたことや想像したなどを造形的に表す場面

- 材料や用具の扱いについて、写真や動画で確かめる。ICT端末を用いれば、録画し見たり、細部を拡大して見たりすることができる。
- 活動の過程や作品をICT端末のカメラ機能を使って撮影し、クラウドなどに保存して、振り返りの学習に活用する。撮影した画像や動画を大画面に映し出して発表する など。

<造形遊びをする活動において>

- 造形的な活動ができるような環境の場所をICT端末で撮影し、グループで相談する際の資料とする
- 自分たちの活動を撮影することで、更に新たな発想や構想をすることのきっかけにする

<絵や立派、工作に表す活動において>

- プログラムの機能から測りたいものを測り、身の回りの材料を使って表し方を工夫して工作に表す
- 形や色、コンピュータの特性、構成の美しさなどの感じを考えながら、表現に活かす方法などを組み合わせて活用するなどして、創り出さる。一歩もブレプロジェクトで場所を撮影し、
- デジタルカメラやICT端末で撮影した画像をコンピュータで編集し、アニメーションをつくる など

作品などからそのよさや美しさを前に思ったが、自分の見方や感じ方を深める場面

- インターネットなどを用いて、類似作品についての情報収集をする
- 生活の中の造形をICT端末などで撮影し、類似情報の資料とする
- 活動の過程や作品をカメラ機能を使って撮影し、クラウドなどに保存して、自分の表し方の変化を振り返り、感じたことや考えたことを人と共有したりする など



文部科学省 「studEX style」より

○図画工作・美術科の指導におけるICTの活用場面と具体例

小学校・第4学年・図画工作科 いくつかの海をこえて（立体に表す）②

【表現の過程を自分で記録】

ICTを活用する際の発想の工夫

- ・授業は、進んでいる過程で新しい発想が生まれ、新たな試みをしていくことができた形を捉えていく。ことと並行してICT端末を活用し、表現の全々の過程を記録することで、新しいアイデアや発想を捉えていくことができる。その際、録画の機能や静止、保存、再生などの方法をわかりやすく直し、児童が自分で操作できるようにしていく必要がある。
- ・タイムラプス動画を活用することで、だんだん空間が広くなった、発想が広がった、順番で進んでいったりするなどの発想の様子を記録して発表することができる。この変化していく様子によって、どのように進んだか、思ったのがの経験や想像を形や色の感じなどを前に進んだり、適切な人数で話し合ったりするなど、授業の過程が活性化を期待できるような指導の工夫が考えられる。

【ICT活用のメリット】

- ・タイムラプス機能またはコマ送り機能を活用することで、想像力を働かせて発想や構想を、数字や文字などの造形活動の結果を立体的に表現し、また、発想や構想の進捗の様子も記録し、学習の振り返りや発表の場にも活用することができる。

【撮影したソフトや機能】

写真、動画撮影機能、タイムラプス機能またはコマ送り機能、タイムラプス機能がない場合、動画再生機能（コマ送り機能）

文部科学省 「studEX style」より

図画工作・美術科の指導におけるICT活用と授業改善



○図画工作・美術科の指導におけるICTの活用場面と具体例

【図表1】生徒AのMetaMajiによる制作・鑑賞ノート

初めての案
・全部同じに見えて面白くない

→視点を変えた
→三つの光の方向を変えた
・背景と光の目が曖昧

<振り返りでのICT活用>

- 自分の見方や感じ方を深め、感性を育む。
- 主体的に学習に取り組む態度である「ねばり強い取組を行う」「自らの学習を調整する」ことにつながる

グループ協議 14:40～15:30(50分間)

■一人一台端末を活用した指導方法の工夫

- ・ICTを活用した実践を交流する中で、実践の価値等を把握するとともに、今後の実践についての見通しをもつ。

<グループ協議の内容>

- ①一人一台端末を利用した実践について交流する。
 - ②ICT機器を活用する上での注意点について話し合う。
- ※問題点ではなく、実践に取り組むうえでの注意点について話し合う。